

2019年度

(令和元年度)

自己点検・自己評価報告書

厚生労働省の指針である「看護師養成所の教育活動に関する自己点検・自己評価指針作成検討会」報告書に基づき教職員を対象とした評価を2019年度も実施しましたので、以下にその結果を報告します。

I 目的

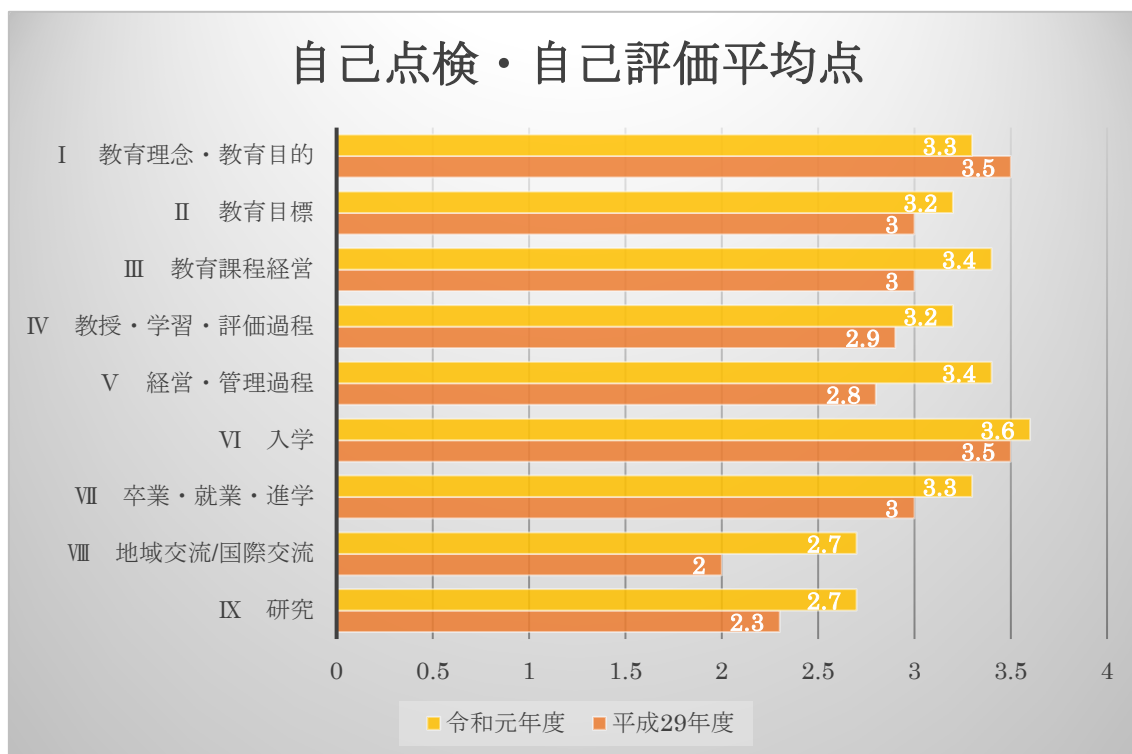
学校運営及び教育活動に対する自己点検・自己評価を継続的に行なうことで改善点を見出し、教育水準の維持・向上を目指すとともに、今後の学校運営に役立てることを目的とする。

II 評価結果

令和元年度の自己点検・自己評価は「看護師養成所自己点検・自己評価指針」に則り、教育理念・教育目的、目標の達成状況、教育課程運営、学生の学習支援、学校運営等について前回同様9カテゴリーの評価表に基づき実施しました。

評価は4段階の評価尺度を点数化し、「4. そう思う」「3. ややそう思う」「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」とし項目の平均点を示し、前回（平成29年度）と比較しました。（図1）

図1



前回との比較において、カテゴリーⅠ以外が上昇。カテゴリーⅠはわずかに低下。カテゴリーⅧ・Ⅸが前回と比べ上昇はしているものの平均点が3以下となり改善策が必要と考えます。

平成30年度より取り組むべき重点課題として、「カリキュラム改正を見据えた準備としてカリキュラムの検討・見直し」「学生及び教育活動の多様な評価の検討」「自己評価をフィードバックし教育の充実を図る」「教員の授業準備の時間確保」「卒業生の活動状況の分析と教育活動の見直し」「国際看護に対する教育支援」「研究活動の保障」をあげていました。以下それぞれのカテゴリーについて評価をしていきます。

I 教育理念・目的

教育理念・目的は前回よりもわずかに低下しています。現在カリキュラム改正に向け、現状に対する問題意識が高まっていることも反映されていると考えます。当校では生命を尊重し人間の可能性を信じるという教育理念のもと、教育活動に取り組んでいます。この理念を軸として学生にとって学習の指針になるよう教育内容・教育方法を検討していきたいと考えています。

II 教育目標

教育目標は理念・目的との一貫性があり、教育目標をゴールに各学年の年次目標を示しています。しかし卒業後の継続教育の考え方を示したうえでの教育目標の設定という部分では否定的評価もあるため、現行の卒後教育の考え方・新卒者の特性なども踏まえ、さらに具体的な指針を示していくことが必要であると考えています。

III 教育課程経営

教育理念・目的の達成に向けて職員全体が到達レベルを確認しながら活動していると考えます。教員の教育・研究活動の充実として、教員の専門性を発揮できるような担当科目と時間配分は前回と比べ改善がみられましたが、授業準備のための時間が取れる体制についてはまだ検討の必要があると考えます。

学生の看護実践体験の保障については前回同様評価が高く、臨地実習指導要綱を改善したことで、臨地実習指導者と教員の協働体制、指導者と教員の役割の明確化でき臨地実習施設との連携をより発揮できてきたのではないかと考えます。実習基幹病院には当校の卒業生も多く実習指導に携わっており、その支援は年々大きなものになっているといえます。

また実習に対する安全教育安全対策については2年次での講義以外に成人看護学実習前にも医療安全オリエンテーションをカリキュラム時間に組み込み継続した教育を続けています。

IV 教授・学習・評価過程

授業内容と教育課程の一貫性・妥当性という部分は前回平均点が3以下となっていました。今回の評価では授業内容と一貫性はわずかに上昇し平均点が3を超えています。カリキュラム改正も見据え、授業内容と科目目標との整合性、看護学教育としての妥当性など見直しは最大の課題になると考えます。学生への単位認定のための評価基準については明確に示し公平性も保てるよう教員間での検討・確認も随時実施していきました。今後も学生に対しての効果的な教育・指導を行うために教員間で互いが教授すべき部分や進捗の確認など行いながら、学生に効果的な指導ができるように教員間の協力体制を明確にしていきたいと考えます。学習支援においては入学後も担任・副担任が学習方法や目標を確認するなどしながら学習への動機づけ・支援を継続しています。また社会人基礎力を養うために入学時から意識づけし1年次終了時には科目毎の評価到達状況を確認し個々の課題を明確にし、支援をしています。

V 経営・管理過程

学習環境整備のための教材の計画的な購入など検討は重ねています。施設設備においては校舎設備が老朽化しているため学習環境整備については、事務とも連携し財政状況を把握した上で、より一層の努力が必要になると考えます。学生の支援についても学生の生活・学修に関して全職員で情報共有をし、支援・協力体制を整えています。必要時には保護者とも適切に連携できるような体制を整えています。

広報活動については教育の特徴や魅力を伝えるため、ホームページや学校案内のパンフレットなども見直しも図っているところです。また各高校からの要望等あれば学校説明会等に積極的に参加し、模擬授業などの実施もしています。

自己評価の体制については、改善がみられました。「自己評価をフィードバックし教育の充実を図る」という前回評価時の課題について授業後・実習後アンケートを改善し、教員間で統一した自己評価をしています。今回の自己点検・自己評価も踏まえ、教職員各々がどのように授業に反映していくか教育目標の維持・改善につなげ機能できるよう更に検討を重ねていきたいと考えます。

VI 入学

入学者状況・推移については分析・検証しているが、29年度の評価同様、少子化問題、看護系大学の設立により学生の確保が難しくなっている現状に変わりはありません。広報については前述したように今後も各高校への訪問など継続して積極的に実施していきたいところです。

VII 卒業・就職・進学

学生の希望により助産師学校への進学が出来ました。各病院における卒業生の活動状況については、看護部長会議等で情報交換を通して把握をしています。前回評価で

は卒業生の活動状況を分析しながら教育活動の見直しなどを実施していくことが今後の課題となっていました。2018年7月～10月には当校卒業生の追跡調査をし、当会退職の理由や退職後の状況等についてアンケートを実施しました。卒業生の50%が道内で勤務しており、休職中が14.2%でした。進学・キャリアアップのため又は結婚を期に当会を退職しているものが多くいました。このアンケート結果をさらに分析し、今後の継続教育へのつなげられるよう教育内容の見直し検討をしていきたいと考えます。

VIII. 地域社会・国際交流

前回同様低い評価となりました。海外からの受け入れ態勢や留学希望に対する体制が整えられていないためと考えます。また国際看護に関しては、科目立てしておらず災害看護に重点を置いています。学生が国際交流について関心が向けられるような教育内容についてはカリキュラム改正時の検討事項であると考えます。地域社会に関しては高齢化社会の進行や在宅看護への移行など社会状況に目を向け、地域包括ケアに貢献できる人材の育成に向けた教育を取り入れていきたいと考えます。

IX. 研究

前回よりもわずかではあるが評価の上昇はみられます。研究活動の保障や時間の確保など今後も検討が必要であると考えます。研究活動の保障、助言・検討の体制についても課題は前回同様であると考えます。

【今後の課題】

令和2年度より取り組むべき重点課題としては、「社会人基礎力を柱にした教育目標の再編をもとにカリキュラム改正のための準備・検討」「国際看護に対する教育支援」「研究活動の保障」があげられます。

今回の自己評価・自己点検では平均点が3以上のカテゴリーが増えていました。中堅教員が2/3以上となり、学生に対しての適格な指導や評価ができるよう各教員が自己研鑽に努めていること、看護学教育、看護観、学生観など教育活動の指針が各自明確になってきているのではないかと考えます。生命を尊重し人間の可能性を信じるという教育理念のもと教育支援体制を充実させることで、学生の学習意欲の上がる環境を整備していきたいと考えます。

今後も教員の教育能力を維持・成長していけるよう教職員全員で課題を共有し意識しながら取り組み、教育環境及び教育の質の向上を目指したいと考えます。